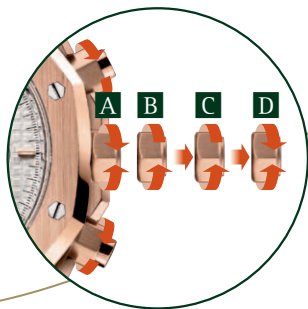
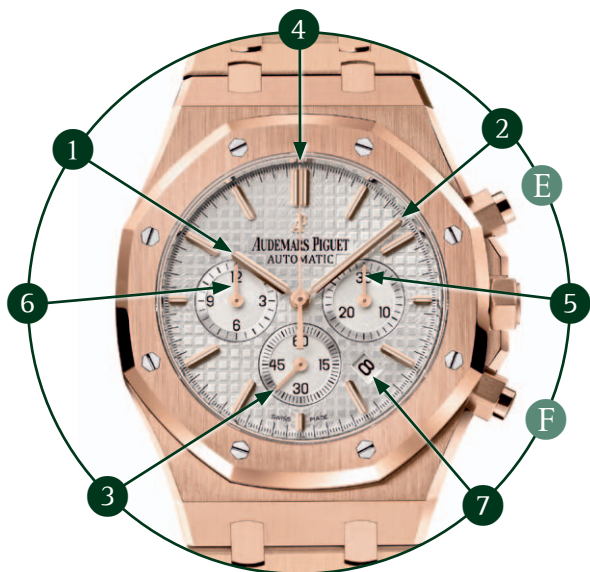


INSTRUCTIONS FOR USE
MODE D'EMPLOI

CHRONOGRAPH

CALIBRE 2385
SEFWINDING

AUDEMARS PIGUET
Le Brassus



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。
読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス
「日本語」をクリックしてください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。



目次

イントロダクション 132ページ

- オーデマ ピゲのマニファクチュール

時計について 136ページ

- オートマティック クロノグラフ 2385

この時計について 138ページ

- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

機能の使い方 140ページ

- 時計の表示と機能
- 時刻合わせ
- ムーブメントの巻き上げ
- 日付の調整
- クロノグラフの使用法



イントロダクション オーデマ ピゲの マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約50 km北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビエと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。





偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォ

ール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追求しつつ、ハイエンドウオッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。



国際的な成功を収めたオーデマ ピゲ は、1972年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウオッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション、トラディション オブ エクセレンスを発表します。オーデマ ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディション オブ エクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブ・インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせず、革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。



時計について

オートマティック クロノグラフ 2385

時と場合によって、2つのアクションを別々に測らなくてはならない時が決まってあるものです。そのような時にクロノグラフは欠かせない道具となります。現代におけるクロノグラフの歴史は、ジュウ溪谷の時計職人アドルフ・ニコルが1844年にコンプリケーションとして特許登録したことに始まります。

時計を填めた腕の動きは、ムーブメント作動に必要な回転エネルギーを発生させます。

18Kゴールドの回転錐の動きが歯車機構により香箱のスプリングに伝達されます。スプリングが徐々にバレル軸に巻き付くことで、エネルギーが蓄積されます。スプリングが徐々にバレル軸に巻き付くことで、エネルギーが蓄積されます。蓄えられたエネルギーはコンスタントにムーブメントに供給されます。

時計を填めた方の運動量や生活習慣の違いにより、数時間から数日の範囲でパワー・リザーブが上限に達します。

この時計について ムーブメント

キャリバー 2385



ケースバック



ダイヤル側

ムーブメントの仕様

ムーブメントの厚さ: 5.50 ミリ

ムーブメントの直径: 26.20ミリ

振動数: 3 Hz (21,600 振動/時)

石数: 37

パワーリザーブ (ミニマム): 40時間

一方向回転の自動巻き上げ

(ムーブメントは 回転錐が文字盤側から見て反時計回りに動くことにより巻き上げられます。従って回転式巻き上げツールを使用する時はツールを時計回りに調整して下さい)

環状てんぶ

平面スパイラル

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 304

特徴

一体型クロノグラフムーブメント

軸歯車クロノグラフのメカニズム

機能の使い方

時計の表示と機能

(図を参照)

- ① 時針
- ② 分針
- ③ 秒針
- ④ クロノグラフの針
- ⑤ 30分積算計の針
- ⑥ 時間針と半時間針
- ⑦ 日付窓
- E クロノグラフ機能のラップボタン
一回押す: スタート
再度押す: ストップ
- F ゼロに戻す押しボタン

この時計は3~4つのポジションを有するリューズを備えています。

- A ねじ込まれた位置のリューズ
(ロイヤルオークの中のいくつかのモデルのみ)
- B 位置 手巻き
- C 位置 クイック日付修正
- D 位置 時刻合わせ

＜注意＞ロイヤル オークのモデルの中には、リューズを調整ポジションにする時、またボタンガードを機能させる時に、まずネジをゆるめなければならぬものがあります。使用した後は防水性を確保し誤作動によるスタートやストップを避けるため、しっかりと締めこんで下さい。



機能の使い方

時刻合わせ

ロイヤルオークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出すことが必要です。

リューズをポジション **D** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。時間調整時には設定希望時刻より5分進めてから希望時刻に戻すことをお勧めします。歯車かみあいが正確になり精度がより高くなります。

注意: デイト表示付きモデルの場合は、日付を調整する時に正午と零時を間違えないようにご注意ください。

ムーブメントの巻き上げ

ロイヤルオークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出すことが必要です。緩めるとリューズは自動的に **B** 位置にセットされます。

時計が停止した場合は、リューズを (**B** 位置で) 最低30回回転させることにより、巻き上げることができます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を持続させます。

注意: 時計を腕に着けていない時、自動巻の巻き上げシステムは機能せず。最初の巻き上げの量によりパワーリザーブの残っている40時間までの間に止まります。

日付の調整

誤作動を防ぐため、日付メカニズムが作動していない午前1時から午後6時までの間に操作を行うことをお勧めいたします。

ロイヤルオークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出すことが必要です。

時計が正確な日付を表示していない場合は、リューズを **C** 位置 (日付のクイック修正) に引き出し、合わせたい日付が現れるまで時計回りに回してください。

ロイヤルオークはモデルによっては、防水性を確保するため操作後にリューズを **A** の位置までよく締めることが必要です。

機能の使い方

クロノグラフの使用方法

ロイヤル オークのモデルの中には、ボタンガードの使用の前にこれをまずゆるめる（反時計回り）ことが必要なものがあります。

スタート

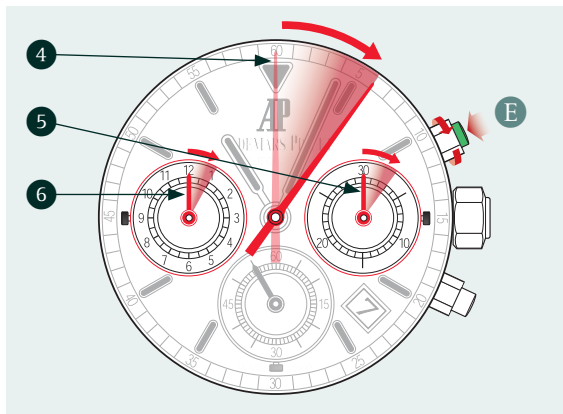
プッシュボタン **E** を押します

ストップ

再びボタン **E** を押してください

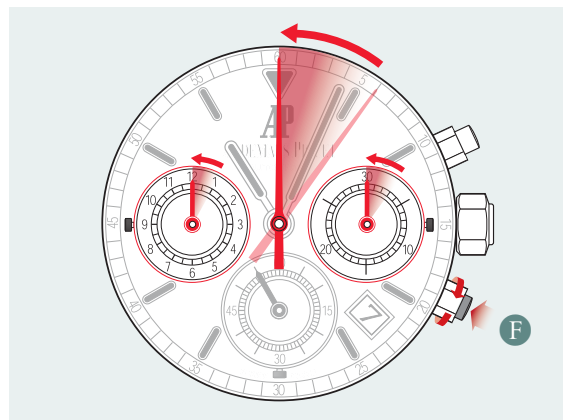
記録された時間の読み方は、以下の様に行います。

- クロノグラフの針 **④**
- 分カウンターの針 **⑤**
- 時間カウンターの針 **⑥**



ゼロに戻す

プッシュボタン **F** を押します



時間測定の続き

一旦ストップしてから、クロノグラフを、ゼロに戻さずに、随時再スタート、再ストップを行い、最初とそれ以後の測定値を加算する事が出来ます。操作中も、時計は正常に進みます。

ロイヤル オークのモデルの中には、ボタンガードを使った後、防水性を確保し誤作動によるスタートやストップを避けるためにしっかりと閉め込む（時計回り）ことが必要なものがあります。

